

河内長野市埋蔵文化財調査報告書 XIII

小塩遺跡
長野神社遺跡
大日寺遺跡
烏帽子形城跡
三日市遺跡
神方丘近世墓

1997年3月

河内長野市教育委員会

序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、市域を高野街道を初めとする街道が通り、南河内における交通の要衝として発展してきた街です。このため、市内には金剛寺、観心寺などの寺社に代表される重要文化財や、多くの埋蔵文化財が残されています。

このような河内長野市も、大阪市内への通勤圏に位置しているため、近年になって住宅都市として急速に開発が進んでいます。

開発がもたらす影響は自然や文化財にとって大きなものです。とくに埋蔵文化財にとっては直接的に関わってくるものとして大きな問題でもあります。

開発を必要とすると同時に、失われていく遺跡に託された先人達のメッセージを現在の市民、さらには未来の市民へと伝えていかなければなりません。

本書は河内長野市に存在する遺跡の発掘調査の成果を収録しています。先人達が残したメッセージの一部でも理解していただければ幸いです。

発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深い御理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成9年3月

河内長野市教育委員会

教育長 中尾謙二

例　　言

1. 本書は平成8年度に河内長野市教育委員会が国庫補助事業として計画、実施した小塙遺跡他、市内遺跡の発掘調査報告書である。但し、神ガ丘近世墓については不時発見の報告である。
2. 調査は本市教育委員会社会教育課文化財保護係主査尾谷雅彦・同係員鳥羽正剛・同嘱託中尾智行を担当者として実施し、内業調査については同嘱託中西和子が補佐した。
平成8年4月1日から着手し、平成9年3月31日をもって終了した。
3. 本書の執筆は尾谷・鳥羽・中尾が行い、編集は東田幸子が補佐した。本書の文責については文末に記載している。
4. 発掘調査および内業整理については下記の方々の参加を得た。
喜多順子・杉本祐子・田川富子・中村嘉彦・柄木裕子・松尾和代・牟田口京子
株式会社島田組
5. 発掘調査については下記の方々の指導、協力を得た。記して感謝する。(敬称略)
片山一道(京都大学理学部助教授)・上田哲也・大谷忠弘・中塚淳志・西浦真由美
西田瑞豊・西田年博・村岡正司・芳崎正和・吉年祐一
6. 写真撮影は遺構については鳥羽・中尾、遺物については中西が行った。
7. 本調査の記録はスライドフィルムなどでも保管しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

凡　　例

1. 本報告書に記載されている標高はTPを基準としている。
2. 土色は新版標準上色帖による。
3. 平面測量は国家座標第VI系による5mメッシュを基準に実施したものである。
4. 図中の北は座標北である。
5. 本書の遺構名は下記の略記号を用いた。
SD……溝　　SK……土坑
6. 遺構実測図の縮尺は1/60とした。
7. 遺物実測図の縮尺は土器1/4を基準としているが、遺物の状況により変えている。
8. 須恵器・瓦器・陶磁器の断面は黒塗り、弥生土器・土師器・土師質土器・黒色土器の断面は白抜きである。又、黒色土器の黒色部分にはスクリーントーンを付した。
9. 遺物番号と写真図版の番号は一致するようにした。

目 次

序 文

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

表 目 次

図版目次

第1章 調査の状況	1
第2章 調査の結果	5
第1節 小塩遺跡 OSO96-1・2・3・4	5
第2節 長野神社遺跡 NGJ96-1	10
第3節 大日寺遺跡 DNT96-1	14
第4節 烏帽子形城跡 EBS96-1	17
第5節 三日市遺跡 MIC96-4	20
第6節 神ガ丘近世墓	23

挿 図 目 次

第1図 河内長野市遺跡分布図(1/40000)	4
小塩遺跡 OSO96-1・2・3・4	
第2図 調査区位置図(1/5000)	5
第3図 OSO96-1 遺構配置図(1/60)	5
第4図 OSO96-2・3・4 遺構配置図(1/60)	6
第5図 OSO96-1・3・4 出土遺物実測図	6
長野神社遺跡 NGJ96-1	
第6図 調査区位置図(1/5000)	10
第7図 遺構配置図(1/60)	10
第8図 出土遺物実測図	11
大日寺遺跡 DNT96-1	
第9図 調査区位置図(1/5000)	14
第10図 遺構配置図(1/60)	14
第11図 出土遺物実測図	15

鳥帽子形城跡 EBS96-1

第12図 調査区位置図(1/5000)	17
第13図 第1調査坑(上層)遺構配置図(1/60)	17
第14図 第1調査坑出土遺物実測図	18
第15図 第2調査坑遺構配置図(1/60)	18
三日市遺跡 MIC96-4	
第16図 調査区位置図(1/5000)	20
第17図 遺構配置図(1/60)	20
第18図 出土遺物実測図	21
神ガ丘近世墓	
第19図 調査区位置図(1/5000)	23
第20図 出土遺物実測図	23

表 目 次

第1表 発掘届出件数月別一覧表	1
第2表 主な民間開発発掘調査一覧表	1～2
第3表 河内長野市遺跡地名表	3

図 版 目 次

図版1 小塩遺跡 OSO96-1・3・4 出土遺物(1～10)	7
図版2 小塩遺跡 OSO96-1 調査区全景(南東から)、 OSO96-2 調査区全景(北西から)	8
図版3 小塩遺跡 OSO96-3 調査区全景(北西から)、 OSO96-4 調査区全景(南から)	9
図版4 長野神社遺跡 調査区全景(南から、北から)	12
図版5 長野神社遺跡 SK 1 遺物出土状況(東から)、SD 1 出土遺物(12)、 SK 1 出土遺物(14)、包含層出土遺物(11・15)	13
図版6 大日寺遺跡 SK 1 遺物出土状況(南から)	15
図版7 大日寺遺跡 調査区全景(北から)、SD 1 出土遺物(20)、 SK 1 出土遺物(17・22・23・26)、包含層出土遺物(16・18・21・24・27)	16
図版8 鳥帽子形城跡 第1調査坑(北西から)、第2調査坑(北西から)、 第1調査坑出土遺物(28・29・32・34・35・37)	19
図版9 三日市遺跡 調査区全景(南から)、包含層出土遺物(38～42・44)	22
図版10 神ガ丘近世墓 出土人骨	23

第1章 調査の状況

平成8年度の文化財保護法57条の2及び3の発掘届及び発掘通知の件数は、1月末現在で総数128件、そのうち発掘届104件、発掘通知24件です。また、今年も新しい遺跡が発見され、新規発見届及び通知は4件提出されています。

今年度の発掘届に見られる原因者の状況は、大規模な開発よりも個人住宅の新築及び改築が大部分を占めています。

第1表 発掘届出件数月別一覧表

(1月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	総 数
発掘届(57条2)	6	7	14	11	11	3	13	14	12	13	104
発掘通知(57条3)	4	1	2	2	6		5	1	3		24
発見届(57条5)				2	1		1				4
発見通知(57条6)											0

第2表 主な民間開発発掘調査一覧表

(1月末現在)

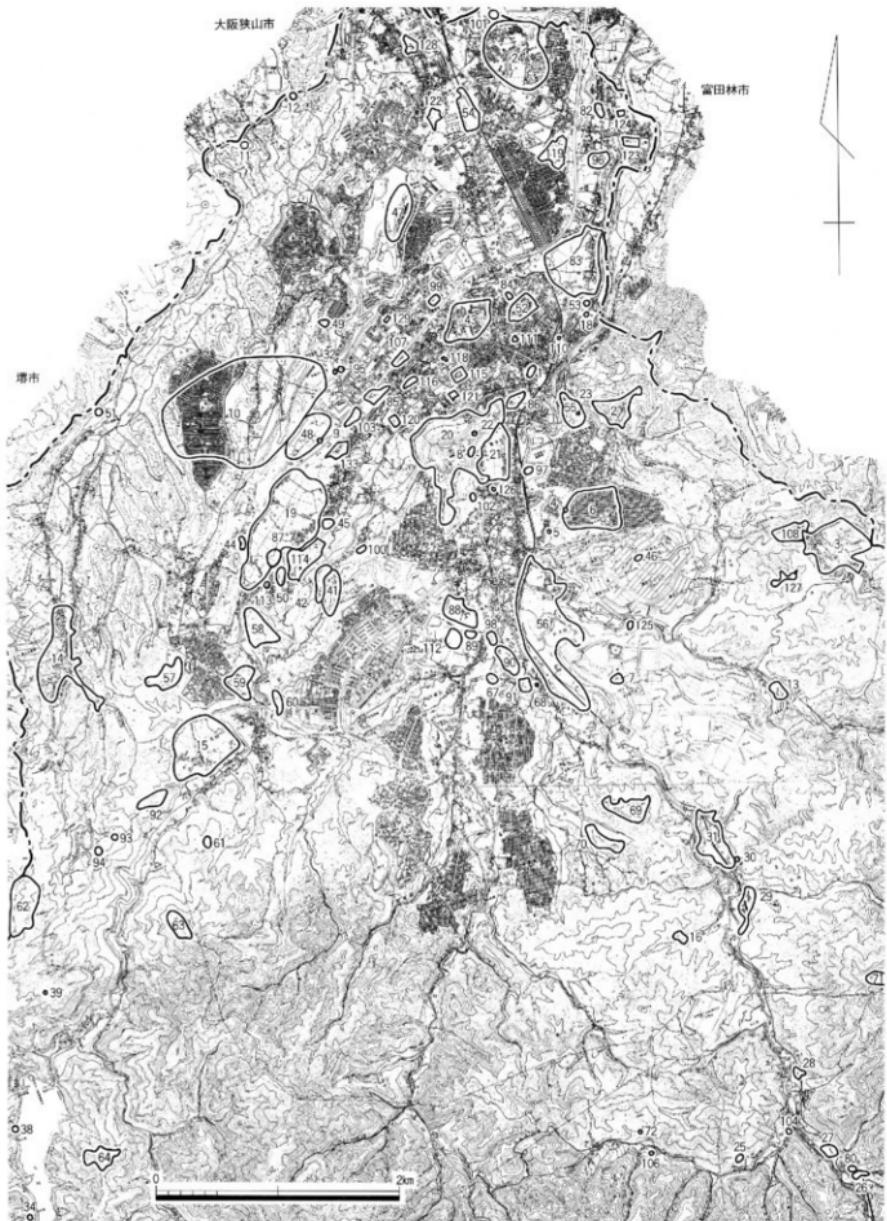
遺跡名	調査期間	申請者	申請面積	用途	区分	備考
駿河川出張所跡	H8.4.2	田中浩幸	57.93m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
駿河川出張所跡	H8.4.2	桐田文雄	67.87m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
小塙	H8.4.9~5.2	芳崎正和	100.04m ²	個人住宅	国 庫	本書掲載
小塙	H8.4.9~5.2	中塚淳志	100.05m ²	個人住宅	国 庫	本書掲載
小塙	H8.4.9~5.2	上田哲也	100.05m ²	個人住宅	国 庫	本書掲載
小塙	H8.4.9~5.2	村岡正司	104.54m ²	個人住宅	国 庫	本書掲載
長野神社	H8.4.22~4.26	吉年第一	1,846.83m ²	個人住宅	国 庫	本書掲載
尾崎	H8.4.26	奥テル子	2,086.30m ²	宅地造成	原因者	遺構・遺物なし
觀心寺	H8.4.30	富賀カツエ	88.00m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
高向	H8.5.15~5.23	サトウ不動産	2,090.00m ²	給油所	原因者	奈良時代の溝、ピットを検出
寺元	H8.6.21	尾崎全良	510.74m ²	個人住宅	国 庫	中世の瓦器が出土
大日寺	H8.7.1~7.3	西田瑞豊 西田年博	268.73m ²	個人住宅	国 庫	本書掲載
三日市	H8.8.2	西尾俊廣	198.95m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
塙谷	H8.8.5	三本寛	434.40m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
高向	H8.10.7~10.9	山際啓史 山際健治	237.79m ²	個人住宅	国 庫	近世の暗渠を検出 土師器、須恵器が出土

遺跡名	調査期間	申請者	申請面積	用途	区分	備考
鳥帽子形塚跡	H 8. 8. 8～8. 10	大谷忠弘	254.02m ²	個人住宅	国 庫	本書掲載
市 町 西	H 8. 8.12～9. 3	太陽興産 ヤマイチハウジング	28,943.40m ²	宅地造成	原因者	中世の溝、土坑、ピット、自然流路を検出
栄 町 東	H 8. 9. 3	高下盛隆	73.72m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
市 町 東	H 8. 9. 3～9. 4	外川秀人	115.00m ²	個人住宅	国 庫	中世の土坑、ピットを検出
松 林 寺	H 8. 9. 4～9. 25	(宗)松林寺	3,637.11m ²	墓地造成	原因者	近世の柱穴を検出
高 向	H 8. 9. 17	鶴田猛	187.44m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
菱 子 尾	H 8. 9. 24	ゼネラル石油	1,950.97m ²	給油所	原因者	遺構・遺物なし
市 町 東	H 8. 10. 9	松原建設	2,062.08m ²	宅地造成	原因者	遺構・遺物なし
亥子塚古墳跡	H 8. 10. 8	中川信夫	769.69m ²	倉庫	原因者	遺構・遺物なし
尾 崎 北	H 8. 10.23	川西正文	105.16m ²	個人住宅	国 庫	古墳時代の溝、ピットを検出
清 水	H 8. 11.14	田中英和	110.89m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
塙 谷	H 8. 11.22	光住建	3,495.70m ²	宅地造成	原因者	遺構・遺物なし
勝所藩河州出張所跡	H 8. 12. 2	東洋建設	551.61m ²	分譲住宅	原因者	遺構・遺物なし
東高野街道	H 8. 12.11	土居孝臣	87.21m ²	個人住宅	国 庫	近世の溝、井戸を検出
瓶 谷	H 8. 12.12～12.16	福井洋一	323.00m ²	個人住宅	国 庫	中世の溝、土坑を検出
三 日 市	H 8. 12.16～12.19	西浦真由美	25.00m ²	個人住宅	国 庫	本書掲載
東高野街道	H 9. 1. 9～1.10	今井義明	83.59m ²	個人住宅	国 庫	近世の土師質土器、陶磁器が出土
高 向	H 9. 1. 9	芝谷勝	274.25m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
向 野	H 9. 1.14～1.17	中川一人	115. 2.7m ²	個人住宅	国 庫	中世の土坑、ピットを検出
市 町 東	H 9. 1. 22	道端清	323.00m ²	個人住宅 分譲住宅	原因者	遺構・遺物なし
上 原 東	H 9. 1.17～調査中	松葉富美子	718.11m ²	共同住宅	原因者	近世の陶磁器が出土
鳥帽子形塚跡	H 9. 1. 22	中根正二郎	409.00m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
勝所藩河州出張所跡	H 9. 1. 27	日下権子	264.14m ²	個人住宅	原因者	遺構・遺物なし
東高野街道	H 9. 1. 9～1.10	今井義明	83.59m ²	個人住宅	国 庫	近世の土師質土器、陶磁器が出土
高 向	H 9. 1. 9	芝谷勝	274.25m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
向 野	H 9. 1.14～1.17	中川一人	115. 2.7m ²	個人住宅	国 庫	中世の土坑、ピットを検出
市 町 東	H 9. 1. 22	道端清	323.00m ²	個人住宅 分譲住宅	原因者	遺構・遺物なし
上 原 東	H 9. 1.17～調査中	松葉富美子	718.11m ²	共同住宅	原因者	近世の陶磁器が出土
鳥帽子形塚跡	H 9. 1. 22	中根正二郎	409.00m ²	個人住宅	国 庫	遺構・遺物なし
勝所藩河州出張所跡	H 9. 1. 27	日下権子	264.14m ²	個人住宅	原因者	遺構・遺物なし

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町
2	河合一寺	社寺	平安以降
3	觀心寺	社寺	古墳(後期)
4	大師山古墳	古墳	古墳(後期)
5	大師山南古墳	古墳	古墳(後期)
6	大師山遺跡	集落	弥生(後期)
7	西押寺	社寺	平安
8	鳥帽子形八幡神社	社寺	室町
9	冢穴古墳	古墳	古墳(後期)
10	長瀬跡	生産	平安~近世
11	小山田1号古墓	古墓	奈良
12	小山田2号古墓	古墓	奈良
13	延命寺	社寺	平安以降
14	金剛寺	社寺	平安以降
15	日野觀音寺遺跡	社寺	中世
16	地藏寺	社寺	地
(17)	冠湧寺	社寺	平安以降
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)
19	高向遺跡	集落	旧石器~中世
20	鳥帽子形古墳	古墳	中世~近世
21	喜多町遺跡	集落	繩文~中世
22	鳥帽子形古墳	古墳	古墳(後期)
23	木広廬遺跡	生産	奈良
24	塙谷遺跡	散布地	繩文~中世
25	渋谷八幡神社	社寺	平安
26	蟹井瀬南遺跡	散布地	中世
27	蟹井瀬北遺跡	散布地	中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世
29	千平口駅南遺跡	散布地	中世
30	岩瀬集落	寺墓	近世
31	清水遺跡	散布地	中世
32	伝「仲宾廟」古墳	古墳?	古墳?
(33)	村地藏堂跡	社寺	近世
34	飛堀埋墓	埋墓	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世
(36)	東の村觀音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村觀音堂跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世
39	飛尻弥勒堂跡	社寺	近世
(40)	宮の下内古墳	古墳	古墳
41	宮山古墳	古墳?	古墳?
42	宮山遺跡	散布地	繩文~中世
43	西代藩屋跡	城館	江戸
		散布地	飛鳥~奈良
44	上原町墓地	古墳	古墳
45	惣持寺跡	社寺	鎌倉
46	東山遺跡	寺跡	奈良~近世
47	寺ヶ池遺跡	散布地	繩文
48	上原遺跡	散布地	奈良~近世
49	住吉神社遺跡	社寺	平安
50	高向神社遺跡	社寺	中世
51	青有原神社遺跡	社寺	中世
52	諸所所河内出張所跡	城館	江戸
53	双子冢古墳	古墳	古墳
54	妻子尻遺跡	古墳	繩文~中世
55	河合寺城跡	城跡	中世
56	三口市遺跡	集落	旧石器~近世
57	日の谷城跡	城館	室町
58	高木遺跡	散布地	繩文
59	汐の山城跡	城跡	中世
60	峰山城跡	城館	中世
61	船荷山城跡	城館	中世
62	見城跡	城館	中世
63	旗塚城跡	城館	中世
64	糠塚城跡	城館	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	平安以降
(66)	葛城第15経塚	経塚	中世
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
68	庚申堂	社寺	中世
69	石仏城跡	城館	中世
70	佐近城跡	城館	中世
71	旗尾城跡	城館	中世
72	葛城第16経塚	経塚	中世
(73)	葛城第18経塚	経塚	中世
(74)	葛城第19経塚	経塚	中世
(75)	狂尾城跡	城館	中世
(76)	大沢城跡	城館	中世
(77)	三国山城跡	経塚	中世
(78)	光庵寺	社寺	中世
(79)	猪子城跡	城館	中世
80	蟹井瀬神社遺跡	社寺	中世
(81)	川上神社遺跡	社寺	中世
82	千代田神社遺跡	社寺	中世
83	向野遺跡	跡・塚	麗文~平安~近世
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	集落	中世
86	人日寺遺跡	社寺	弥生~中世
87	高向南遺跡	散布地	縄文
88	小塙遺跡	集落	縄文~奈良
89	加塙遺跡	集落	古墳(後期)
90	尾崎遺跡	集落	古墳~中世
91	ジョウノマ遺跡	城跡?	中世
92	仁王山城跡	城館	中世
93	タコラ城跡	城館	中世
94	岩立城跡	城館	中世
95	上原近世瓦窯	生産	近世
96	市町東遺跡	散布地	弥生~中世
97	上田町窯跡	生産	近世
98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
99	西之町遺跡	集落	中世
100	野間里遺跡	集落	平安
101	鳴尾遺跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳~中世
103	上原中遺跡	散布地	古墳~中世
104	小野塙	塙	古墳
(105)	葛城第17新塙	経塚	中世
106	秦舎堂	社寺	中世以降
107	野作廻遺跡	集落	中世
108	寺元遺跡	集落	奈良~中世
(109)	鳥原遺跡	散布地	中世
110	法師塙古墳跡	古墳	古墳
111	山上講山古墳跡	古墳	古墳
112	西浦遺跡	集落	古墳~中世
113	地福寺跡	寺跡	中世
114	宮の下遺跡	集落	平安~中世
115	栄町遺跡	散布地	弥生~古墳
116	錦町遺跡	散布地	中世
(117)	太井遺跡	散布地	中世
118	錦町北遺跡	社寺	弥生~中世
119	市町西遺跡	散布地	縄文~中世
120	栄町南遺跡	散布地	中世
121	栄町東遺跡	散布地	弥生~中世
122	楠町東遺跡	散布地	弥生~中世
123	沙の宮町南遺跡	散布地	奈良
124	沙の宮町遺跡	散布地	中世
125	神ガ丘近世墓	埋墓	近世
126	増福寺	社寺	中世
127	三昧城遺跡	跡・塚	中世~近世
128	松林寺遺跡	寺跡	近世
129	昭安町遺跡	散布地	中世
*130	東高野街道	街道	平安以降
*131	西高野街道	街道	平安以降
*132	高野街道	街道	平安以降
133	上原東遺跡	散布地	弥生~中世

() は地図範囲外 * は街道につき地図上にプロットせず

第3表 河内長野市遺跡地名表



第1図 河内長野市遺跡分布図(1/40000)

第2章 調査の結果

第1節 小塩遺跡 OSO96-1・2・3・4

A. 位置と環境

当該遺跡は天見川・加賀田川を東側に見下ろす河岸段丘上に位置する。付近の微地形としては、東側と南側に入り込んだ小谷から北にのびる丘陵の東側斜面にあたる。この小谷を挟んだ南側には加塩遺跡と西浦遺跡がある。今回の調査地は国道371号バイパスに沿った段丘上で、標高は約139mを測る。調査は調査区毎に約8m²の調査坑を設定して実施した。



第2図 調査区位置図(1/5000)

B. 結果

調査の結果、各調査区で遺構・遺物が検出された。

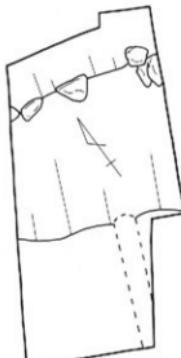
遺構面は現地表下0.5mで検出された。基本層序は現地表下0.3mまでは盛土、旧耕土、床土で、その下層はにぶい黄橙色細礫混じり粗砂、にぶい褐色微砂であった。

以下、各調査区ごとに結果を述べる。

[OSO96-1]

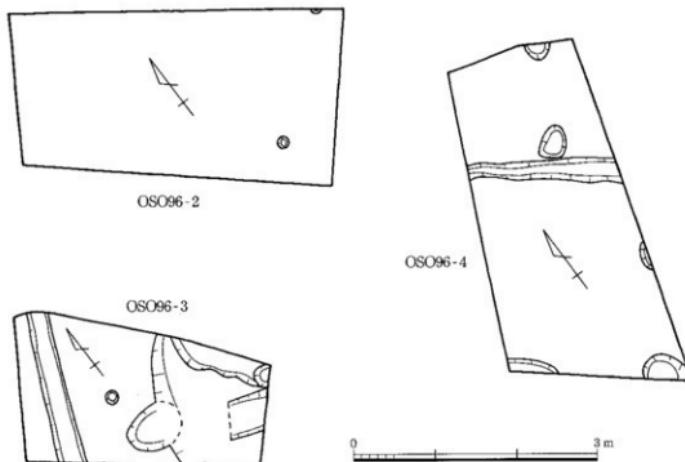
4つの調査区の中で最も南側に位置する。遺構としては石列遺構が1基検出された。石列遺構の北側は近世の溝によって削られている。遺構の軸方向はN-75°-Wを示し、検出長は2mを測る。用いられている石は自然石で最大45×30×20cmを測る。遺構から出土した遺物はなかった。

包含層から出土した遺物には土師器・須恵器の他に、土師質土器・陶磁器もあったが、細片ばかりであったため、実測できたのは須恵器壺蓋(4)だけであった。



第3図 OSO96-1
遺構配置図(1/60)

小塩遺跡



第4図 OSO96-2・3・4遺構配置図(1/60)

[OSO96-2]

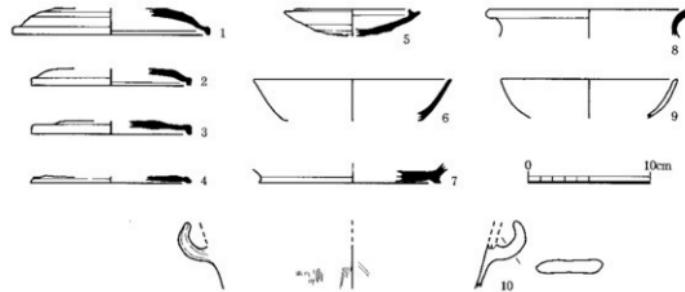
遺構としてはピットが2カ所検出された。遺構から出土した遺物には土師器があったが、いずれも細片で実測できるものはなかった。

包含層から出土した遺物はなかった。

[OSO96-3]

この調査区の遺構としては溝が2条、土坑が1カ所、ピットが2カ所、落ち込みが1カ所検出された。西側の溝は内部に拳大の河原石を詰めた暗渠である。遺構から出土した遺物はなかった。

包含層から出土した遺物には土師器・須恵器があったが細片が多く、実測できたものには須恵器壺蓋(2・3)、須恵器环身(5・6)、須恵器甕(8)があった。



第5図 OSO96-1・3・4出土遺物実測図

[OSO96-4]

4つの調査区の中で最も北側に位置する。遺構としては溝が1条、ピットが5カ所検出された。遺構からは土師器・須恵器が出土したが、細片のみで実測できるものはなかった。

包含層から出土した遺物には土師器・須恵器があった。実測できたものには土師器塊(9)、土師器瓶(10)、須恵器坏蓋(1)、須恵器坏身(7)があった。

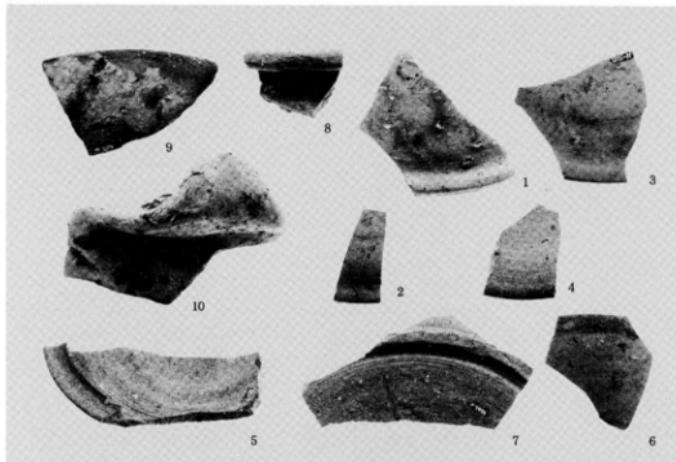
C. まとめ

今回の調査では各調査区において遺構・遺物の出土を見ることができたが、遺構に関しては近世の掘削によって削られているものがあった。特にOSO96-1地点の調査坑では石列遺構を検出したが、後世に造られた溝によって北側が削られており、その性格を明らかにすることはできなかった。

遺物は残存状況が悪く実測可能なものは少なかった。時期として7世紀前半から8世紀中頃があてられる。

(中尾)

図版1 小塩遺跡



OSO96-1・3・4出土遺物(1~10)

図版2 小塙遺跡

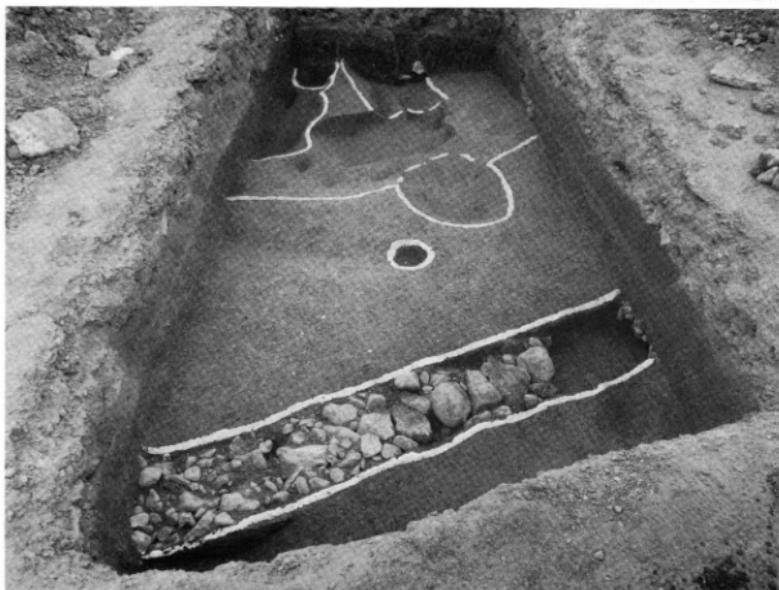


OSO96-1 調査区全景(南東から)

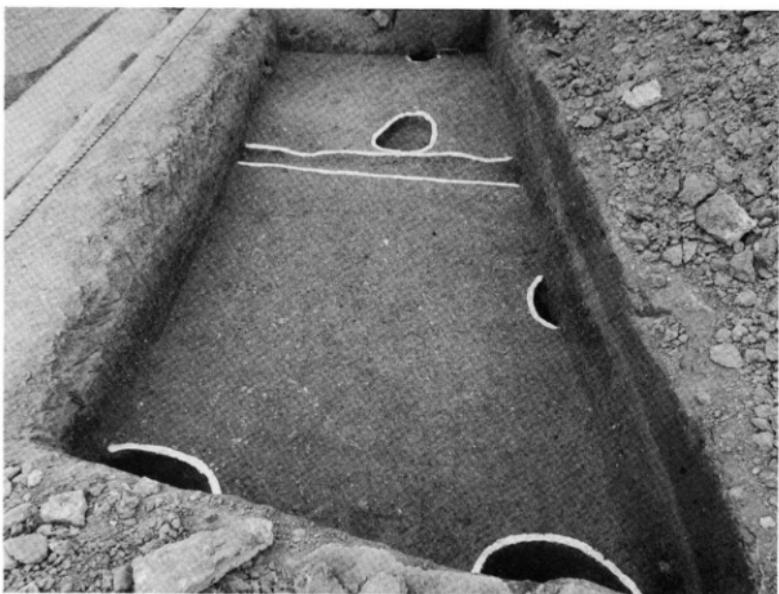


OSO96-2 調査区全景(北西から)

図版3 小塩遺跡



OSO96-3 調査区全景(北西から)



OSO96-4 調査区全景(南から)

第2節 長野神社遺跡 NGJ96-1

A. 位置と環境

当該遺跡は岩湧山系を水源とする石川左岸の中位段丘上に位置する。当該地の北側に京都から高野山へと向かう東・西高野街道の合流点があり、合流した高野街道が西側を通る。遺跡の中心は長野神社の境内である。本殿は一間社流造で、創建は室町時代末期と見られ、国の重要文化財の指定を受けている。当該地は境内の北側、つまり本殿の後背地に当たる。

B. 結果

調査は約30m²の調査坑を設定して行った。基本層序は、現地表面から表土(層厚0.1m)、10YR5/6黄褐色疊混じり細砂(同0.2m)、10YR6/1褐灰色細砂(同0.05m)で、地山は10YR4/3にぶい黄褐色疊混じり粗砂であった。

検出した遺構には溝、土坑があった。

[S D 1]

S D 1は調査区を南北に通る暗渠である。南北端は調査区外に及ぶため詳細は不明である。検出された遺構の規模は、長さ9m、北端の幅0.45m、南端の幅1.4m、北端の深さ0.4m、南端の深さ0.43mを測る。幅は南端ほど広く、底は南側へと傾斜している。軸方向はN-13°-Eを示す。遺構の内部には人頭大ほどの川原石が詰められていた。

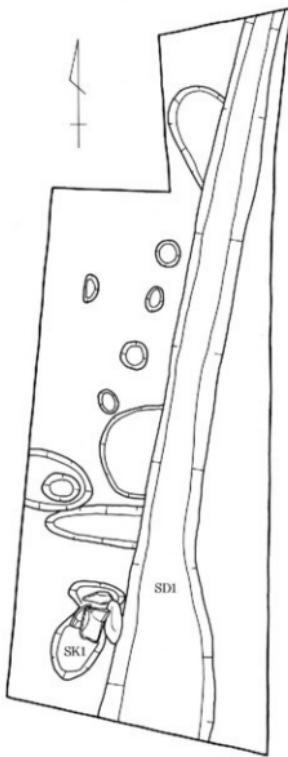
出土した遺物には土師質土器の擂鉢(12)、堺擂鉢(13)があった。

[S K 1]

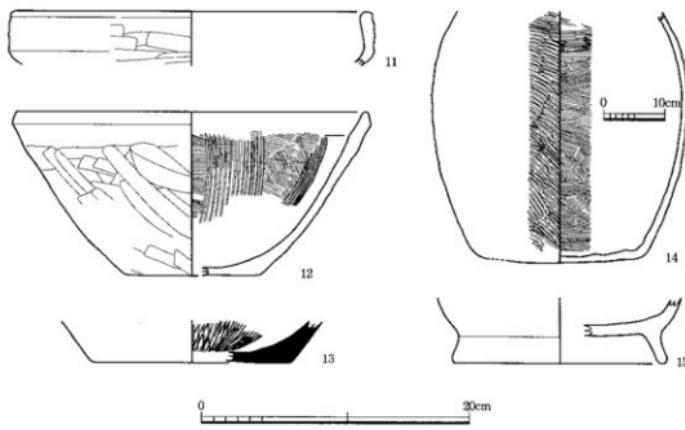
S K 1は調査坑の南側、S D 1の西側に位置する。遺構の平面形は不整形である。遺構の規模は長軸1.3m、短軸0.65m、深さ0.1mを測る。



第6図 調査区位置図(1/5000)



第7図 遺構配置図(1/60)



第8図 出土遺物実測図

土師質土器の壺(14)が出土した。

〔包含層〕

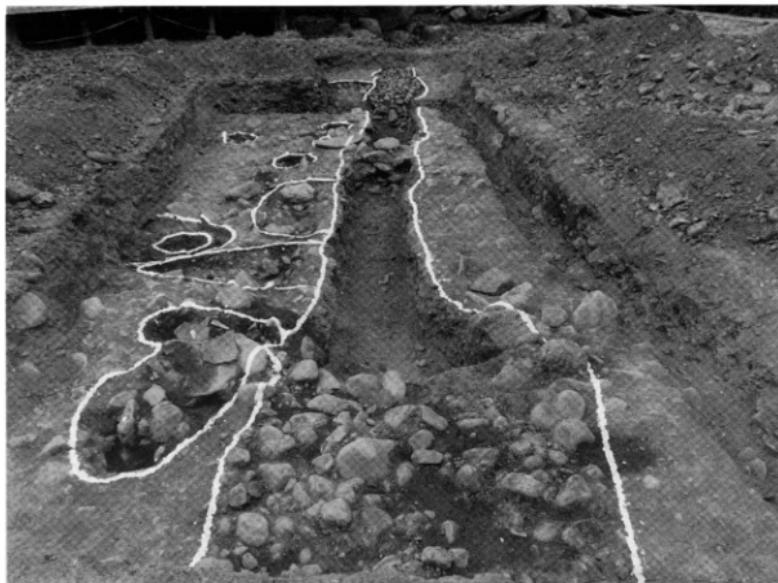
包含層からは土師質土器の炮烙(11)と火鉢(15)が出土した。

C. まとめ

調査の結果、遺構の規模、軸方向から S D 1 は長野神社本殿に付隨した暗渠である可能性が得られた。市内遺跡の既往調査で検出されたほとんどの暗渠は、内部に詰められた石が拳大の川原石であるが、本次調査のように人頭大の石を用いたものは初見である。石の差は利用する地形、用地の目的（例えば農地、生産地、宅地、社寺などの用途）などの制約に起因するものと考えられる。しかし、現地点では原因の断定はできない。今後の調査例の追加が望まれる。

(鳥羽)

図版4 長野神社遺跡

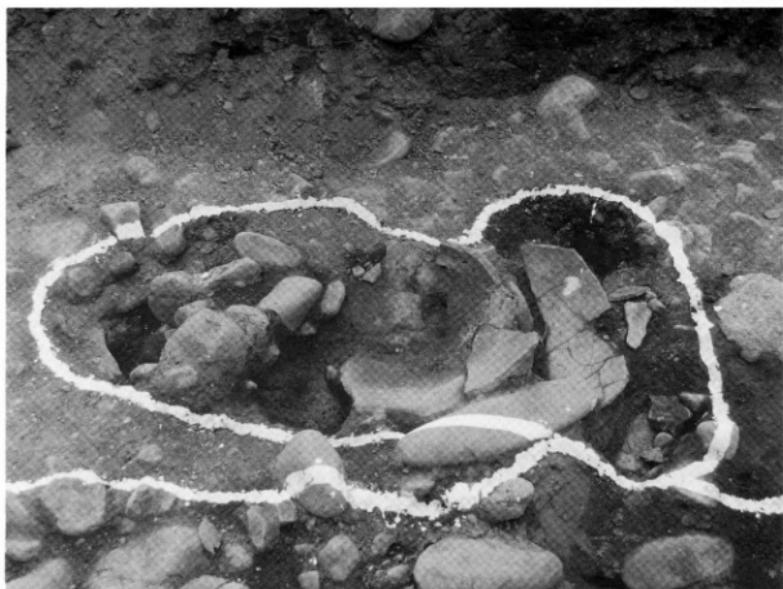


↑調査区全景(南から)

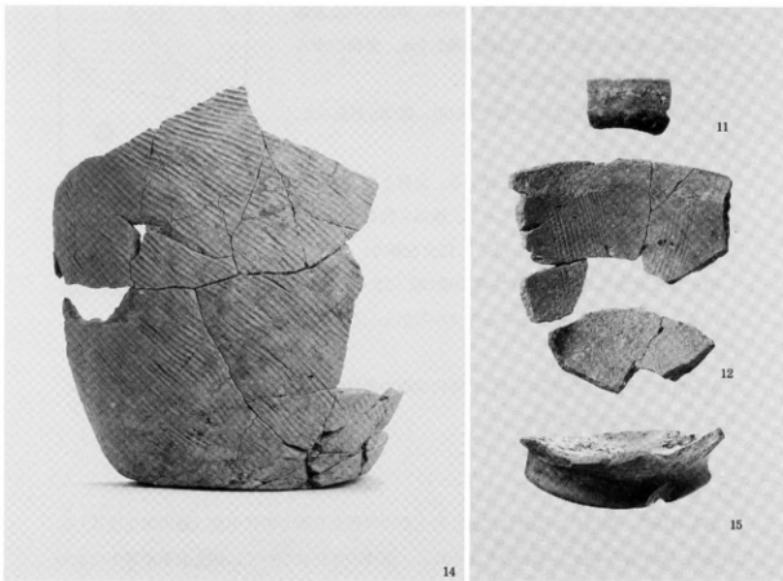


(北から)→

図版 5 長野神社遺跡



S K 1 遺物出土状況(東から)



S D 1 出土遺物(12)、S K 1 出土遺物(14)、包含層出土遺物(11・15)

第3節 大日寺遺跡 DNT96-1

A. 位置と環境

当該遺跡は喜多町内に所在し、北側を流れる岩湧山系を水源とする石川と東側を流れる天見川との合流点の南西側に位置する。標高は約114mである。



第9図 調査区位置図(1/5000)

B. 結果

調査は5.0m×2.8mの調査坑を設定して行った。基本層序は、現地表面から盛土(層厚0.1m)、10YR7/2にぶい黄橙色細砂(同0.1m)、床土(同0.05m)、10YR3/4暗褐色疊混じり粘土(同0.15m)で、地山は10YR3/4にぶい黄橙色疊混じり粘土であった。

検出した遺構には溝、土坑があった。

〔S D 1〕

S D 1は調査坑の中央を南西から北東に通る。溝の両端は調査区外に及ぶため詳細は不明である。検出された遺構の規模は、東側の幅2.0m、西側の幅2.5m、東側の深さ0.13m、西側の深さ0.24mを測る。

出土した遺物には弥生時代中期の壺(19)、甕(20)があった。

〔S K 1〕

S K 1は調査坑の北西隅に位置する。北側と西側が調査坑外に及ぶため、詳細は不明である。検出された遺構の規模は東西0.95m、南北0.7m、深さ0.12mを測る。

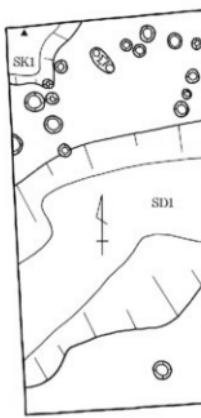
出土した遺物には弥生時代中期の壺(22・23・26)、甕(17)があった。(23)は第10図の▲地点から出土した。

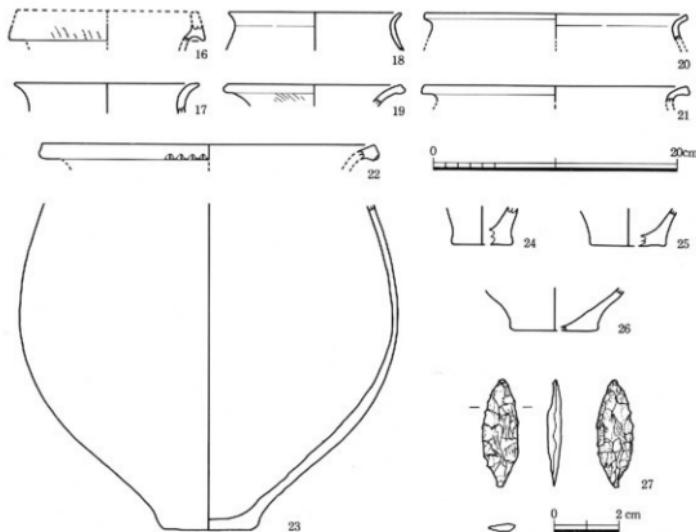
〔包含層〕

包含層から出土した遺物には弥生時代中期の壺(16)、甕(18・21・25)、後期の甕(24)、サヌカイト製の石鏃(27)があった。

C. まとめ

調査の結果、検出した遺構は出土した土器の年代から弥生時代中期（畿内第Ⅲ様式）から後期（畿内第Ⅴ様式）のものと見られる。遺構の性格については調査面積が狭小のため

第10図 遺構配置図(1/60)
▲ 土器出土地点



第11図 出土遺物実測図

確認できなかった。しかし、調査地周辺の耕作地は隣接する耕作地間の高低差が比較的少なく、本次調査坑の包含層は弥生時代の純粹な層と見られることから、地形的に本次調査地から北側と東側に向かって続く緩斜面には保存状況の良好な弥生時代の遺構が検出される可能性が得られた。

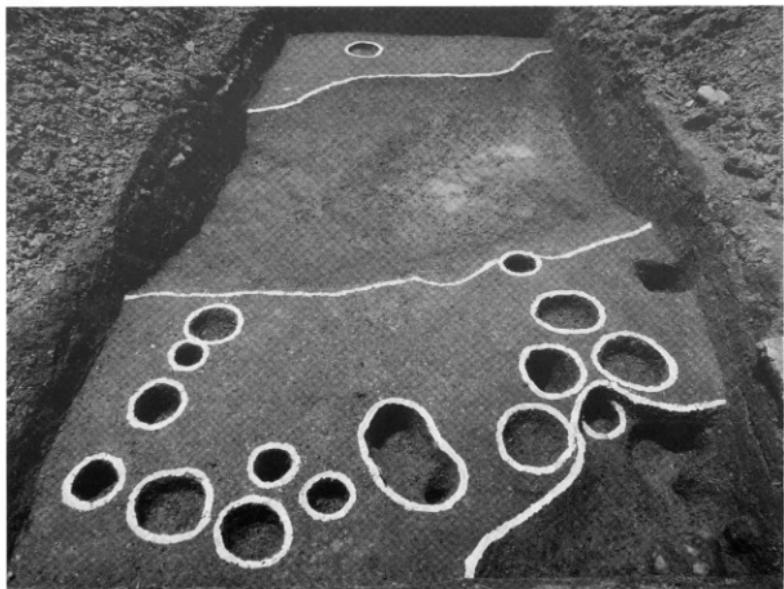
(鳥羽)

図版 6 大日寺遺跡

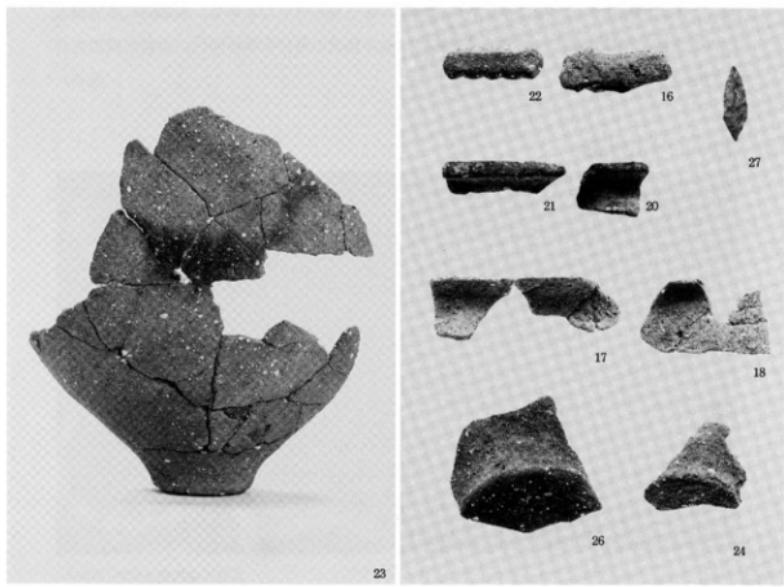


S K 1 遺物出土状況(南から)

図版 7 大日寺遺跡



調査区全景(北から)



S D 1 出土遺物(20)、S K 1 出土遺物(17・22・23・26)、包含層出土遺物(16・18・21・24・27)

第4節 鳥帽子形城跡 EBS96-1

A. 位置と環境

当該遺跡は中世の鳥帽子形城を中心とするが、その東側の段丘上に広がる縄文時代から中世にかけての集落跡を含むものである。今回の調査地は山城の位置する鳥帽子形山の東側裾部を南北に走る高野街道沿いに位置し、標高は約120mを測る。調査は約5m²の調査坑を2カ所に設定して実施した。南側を第1調査坑、北側を第2調査坑とする。



第12図 調査区位置図(1/5000)

B. 結果

調査の結果、両調査坑で遺構を検出し、若干の遺物も出土した。特に第2調査坑は遺構の密度が高く、掘立柱建物の柱穴と思われるピットが多数検出された。

[第1調査坑]

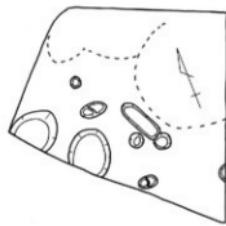
遺構面は2面検出できたが、出土遺物から大きく上層と下層の2つに分けることができる。上層では平安時代の黒色土器・土師器と中世の土師質土器・瓦器・陶磁器、下層では古墳時代の土師器・須恵器が出土した。

現地表下0.5mで上層遺構面を、0.8mで下層遺構面を検出した。基本層序は表土、灰黄色粗砂混じり細砂、黄橙色細礫混じり細砂、にぶい黄橙色細礫混じり細砂までが土層であり、褐灰色粗砂混じり細砂、灰黄褐色粗砂混じり細砂までが下層である。

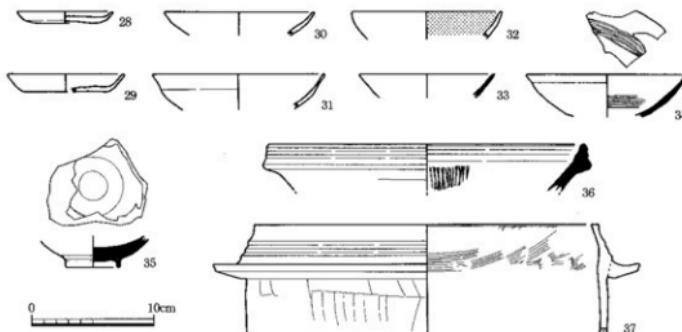
この調査坑の遺構としてはピットと落ち込みが検出されたが、その性格を確認できたものではなかった。また遺構内から出土した遺物も細片のみで実測できるものはなかった。

時期としては古墳時代後期、平安時代から中世があてられる。

上層包含層から出土した遺物には古墳時代後期、平安時代から中世のものがあったが、細片のみであったため、古墳時代後期の遺物には実測できるものはなかった。実測できたものには黒色土器A類塊(32)、土師質土器皿(28・29)、土師質土器塊(30・31)、土師質土器土釜(37)、瓦器塊(33・34)、備前の播鉢(36)、伊万里の碗(35)があった。下層包含層から出土した遺物には土師器・須恵器があったが、細片であったため実測できなかった。

第13図 第1調査坑(上層)
遺構配置図(1/60)

鳥帽子形城跡



第14図 第1調査坑出土遺物実測図

[第2調査坑]

遺構の埋没深度は浅く、層厚0.2mの耕土を除去するとすぐに地山が検出された。

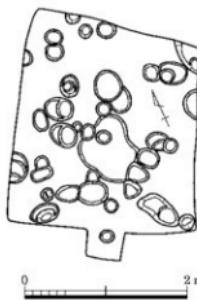
この調査坑の遺構としてはピットが多数検出された。掘立柱建物の柱穴だと考えられるが建物の平面形は明確でない。遺構から出土した遺物には古墳時代後期、平安時代から中近世にかけてのものがあったが、細片のみであったため実測できるものはなかった。中心となるのは古墳時代後期と中世である。

包含層から出土した遺物には古墳時代後期、平安時代から中近世のものがあったが、量が少ないと細片であったため実測できるものはなかった。

C.まとめ

調査の結果、両調査坑で古墳時代後期、平安時代から中近世にかけての遺構・遺物が検出された。検出された遺構・遺物のうち、古墳時代後期のものは今回の調査地の北東側において、河内長野市教育委員会が1989年度に行った調査で確認された集落に関連するものである可能性がある。付近では天見川の西側に広がる河岸段丘上において集落が分布していると予想される。そういう視点から見てみると、1989年度の調査地は中位段丘の北端、今回の調査地も一段上がった中位段丘の北端に位置しており、両調査地において検出された遺構が関連性を持つものであるならば、天見川西側の中位段丘北端における集落分布の広がりが確認されたこととなる。

(中尾)



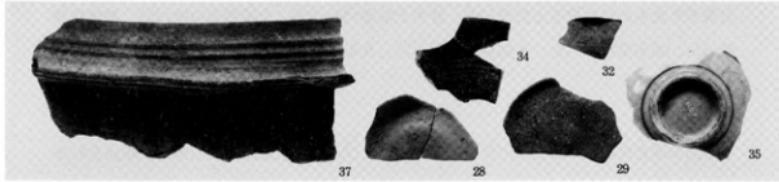
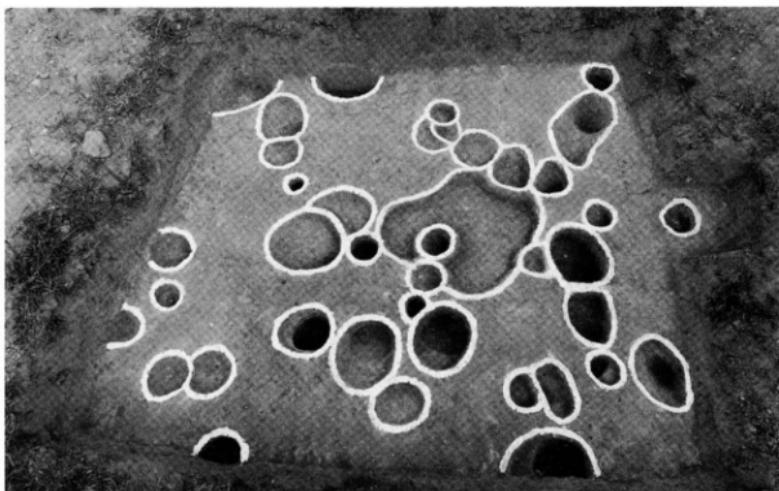
第15図 第2調査坑
遺構配置図(1/60)

図版 8 烏帽子形城跡



†第1調査坑(北西から)

第2調査坑(北西から)†

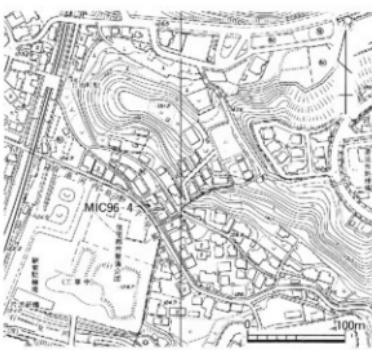


第1調査坑出土遺物(28・29・32・34・35・37)

第5節 三日市遺跡 MIC96-4

A. 位置と環境

当該遺跡は石見川と天見川によって形成された河岸段丘上に位置するもので、旧石器時代から近世までの複合遺跡である。特に中心となる時期は弥生・古墳時代で、石見川北側の低位段丘上から弥生時代中期の堅穴住居が検出されている。今回の調査地はその低位段丘の北端に位置し、標高約127mを測る。調査は約8m²のL字型の調査坑を設定し実施した。



第16図 調査区位置図(1/5000)

B. 結果

調査の結果、狭小な調査坑ながら比較的多くの遺構・遺物が検出された。

遺構面は現地表下0.9mで検出された。基本層序は現地表下0.7mまでは盛土で、その下層は灰黄色粗砂、暗灰黄色粗砂混じり粘土であった。

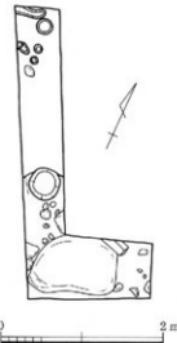
遺構としては落ち込みが1カ所、ピットが数カ所検出された。南側で検出された落ち込みは調査坑が狭小なため平面形が確認できなかった。深さは約0.3mを測る。内部からは100×50cm程度の花崗岩のほか、拳大の河原石がいくつか検出された。

落ち込みからは弥生時代後期、古墳時代後期の遺物が出土したが、弥生時代後期の遺物は細片であったため実測できなかった。実測できたものには土師器甕(46)、須恵器杯身(43)、須恵器高杯(44)があった。

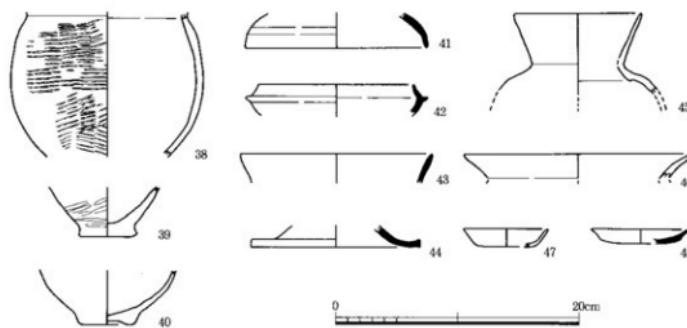
包含層から出土した遺物には弥生時代後期、古墳時代後期のものと中世のものがあった。実測できたものには弥生土器壺(40)、弥生土器甕(38・39)、土師器直口壺(45)、須恵器杯蓋(41)、須恵器杯身(42)、土師質土器皿(47)、瓦器皿(48)があった。

C. まとめ

今回の調査において石見川の低位段丘北端および、三日市遺跡北端で遺構が確認された



第17図 遺構配置図(1/60)



第18図 出土物実測図

ことは遺跡の範囲を考える上で重要な成果といえる。

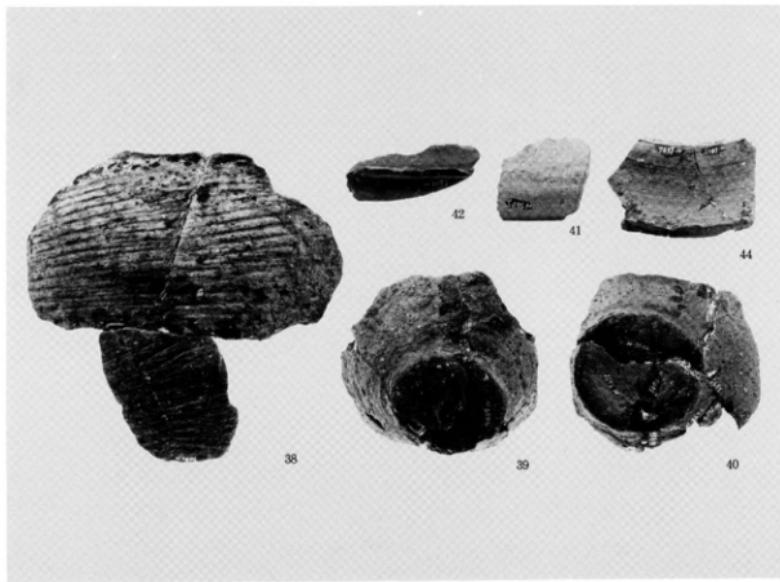
包含層から出土した弥生土器は先述したように後期のもので、近似するものが当遺跡の北側丘陵上に位置する大師山遺跡から出土している。大師山遺跡は高地性集落と考えられており、低位段丘上に位置する当遺跡との関係が想起される。

(中尾)

図版9 三日市遺跡



調査区全景(南から)

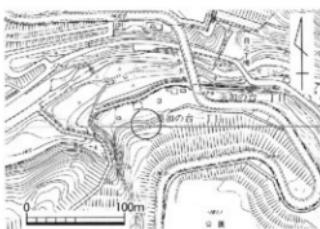


包含層出土遺物(38~42・44)

第6節 神ガ丘近世墓

A. 位置と環境

当該遺跡は石見川の左岸、現在美加の台住宅地の北側斜面に位置し、標高約148mを測る。発見の端緒は、平成7年2月、土地の所有者が車庫を建設するために山の斜面を掘削したところ、人骨が出土したことによる。当初、発見者が警察に連絡し、教育委員会は警察の連絡により現地を調査した。



第19図 調査区位置図(1/5000)

B. 結果

現地調査は、発見場所がすでに削平されていたため、かろうじて断面が観察できただけである。断面の観察の結果、山の斜面に表土から-80cm位に炭層がみられ、一部焼骨も混じっていた。このことから、この場所が火葬をおこなった墓地であった可能性が高く、さらにこの斜面に墓地跡が広がっていると思われる。

出土した人骨は、遺物コンテナーに約4杯分である。この人骨は京都大学理学部自然人類学科形質人類学の助教授片山一道氏に鑑定を依頼した。結果は以下の通りである。

出土人骨には完形をとどめた骨は少なく、一部を破損していたり、破片となっているものがほとんどである。複数個体の人骨が混じっており、発見の状況を考えると、個体ごとに骨を分別することはほとんど不可能である。大腿骨による最小個体数は5個体で、そのうち2体は小児である。小児はそれぞれ4歳と6歳程度で、成人骨は全て青年から壮年までのものである。成人骨には少なくとも男性が1体、女性が2体分含まれている。病変や傷跡は、両小児の歯に虫歯があること以外には認められない。

これらの人骨の年代については、人骨と共に出土した染付碗(49)から、江戸時代中期頃と思われる。

(尾谷) 第20図 出土遺物実測図



図版10 神ガ丘近世墓



出土人骨

報告書抄録

ふりがな	かわちながのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	河内長野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	小塩遺跡 長野神社遺跡 大日寺遺跡 烏帽子形城跡 三日市遺跡 神ガ丘近世墓
卷次	廻
シリーズ名	河内長野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第28輯
編著者名	尾谷雅彦 羽鳥正剛 中尾智行
編集機関	河内長野市教育委員会
所在地	〒586 大阪府河内長野市原町396-3 TEL 0721-53-1111
発行年月日	1997年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
小塩遺跡	大阪府河内長野市 小塩町397-2他	府117 河38	27216	34°25'42" 河1	135°34'04" 135°26'49"	1996.4.9 1996.5.2	32m ²	個人住宅増築に 伴う工事
長野神社遺跡	大阪府河内長野市 長野町125-2他	府1 河1	27216	34°26'49" 河2	135°34'28" 135°26'22"	1996.4.22 1996.4.26	30m ²	〃
大日寺遺跡	大阪府河内長野市 喜多町64-1	府115 河86	27216	34°26'41" 河20	135°34'21" 135°26'22"	1996.7.1 1996.7.3	14m ²	〃
烏帽子形城跡	大阪府河内長野市 上田町139	府24 河20	27216	34°26'22" 河56	135°34'12" 135°25'56"	1996.8.8 1996.8.10	10m ²	個人住宅増築に 伴う工事
三日市遺跡	大阪府河内長野市 三日市町16-3	府68 河56	27216	34°25'56" 河125	135°34'31" 135°25'41"	1996.12.16 1996.12.19	8m ²	〃
神ガ丘近世墓	大阪府河内長野市 東片添町13	河125	27216	34°25'41" 河125	135°35'01" 135°25'41"	1995.2.2		不時発見

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小塩遺跡	集落	彌文～奈良	石列	土師器、須恵器	
長野神社遺跡	社寺	室町		土師質土器	
大日寺遺跡	社寺	弥生、中世		弥生土器、石器	
烏帽子形城跡	城館	中世～近世	柱穴	土師器、須恵器 黒色土器、土師質土器、瓦器	
三日市遺跡	集落	旧石器～近世		弥生土器 土師器、須恵器	
神ガ丘近世墓	墳墓	近世		人骨	

河内長野市文化財調査報告書第28輯
河内長野市埋蔵文化財調査報告書 XIII

1997年3月31日発行

発 行 大阪府河内長野市原町396-3

河内長野市教育委員会

0721-53-1111

印 刷 中島弘文堂印刷所

